



## 2021年度 第2回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し（2021年7月～8月）のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は多くの海域で平年並み。

カタクチイワシ（小羽から大羽）は平年を下回る。

(2) 海域別：

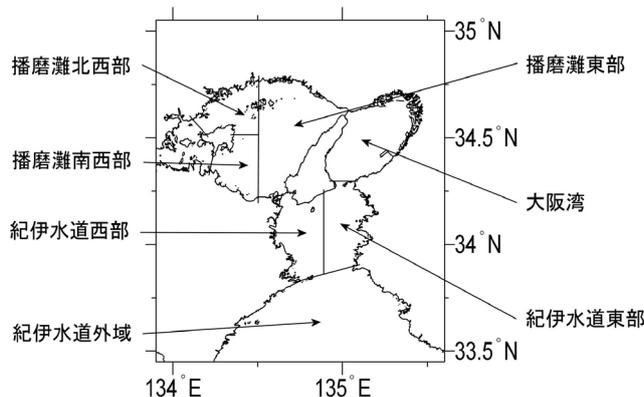
紀伊水道東部・播磨灘南西部のシラスは前年同様、平年並み。

紀伊水道西部のシラスは好漁であった前年並み。

大阪湾のシラスは平年並みであった前年を下回る。

播磨灘東部・播磨灘北西部のシラスは不漁であった前年を上回り、平年並み。

大阪湾のカタクチイワシは前年を上回るが、平年を下回る。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永

浮魚資源部（廿日市） 船本、河野

電話：0829-55-0666、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

# 2021年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

## 1. 今後の見通し（2021年7月～8月）

### シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部・播磨灘南西部では2020年同様、平年並み。

紀伊水道西部では好漁であった2020年並み。

大阪湾では平年並みであった2020年を下回る。

播磨灘東部・播磨灘北西部では不漁であった2020年を上回り、平年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とした（図1～図3）。

### カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では2020年を上回るが、平年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とした（図4）。

シラス、カタクチイワシのいずれも2011年～2020年の平均値を平年値とした。

## 2. 漁況の経過（2021年4月～6月）及び今後の見通し（2021年7月～8月）についての説明

### (1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の168%、平年の89%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の438%、平年の71%であった。

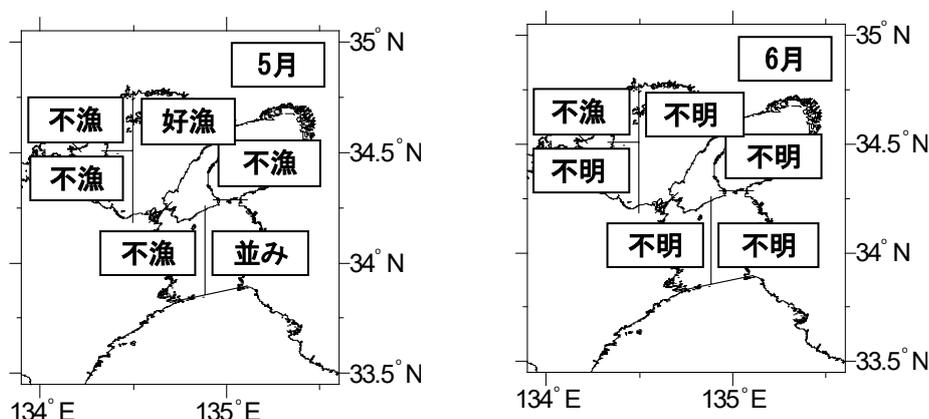
大阪湾（大阪府）では2021年の漁は4月1日に一部の船が出漁したが4月21日まで休漁し、4月22日から再び出漁を開始した。4月の漁獲量は前年の812%、平年の286%と好漁であったが、聞き取りによればシラスの大きさは全体的に大きく、単価の高いサイズの漁獲は少なかった模様である。5月の漁獲量（暫定値）は前年の121%、平年の36%であった。6月中旬になり、大阪湾で発生したと推測される群の加入がみられている。

大阪湾（兵庫県）では2021年の漁は前年より18日早い4月19日から始まった。5月の漁獲量は前年の179%、平年の50%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2021年の漁は前年より14日早い5月18日から始まった。5月の漁獲量は平年の133%であった（前年は漁獲なし）。

播磨灘南西部（香川県側）では5月下旬から漁期入りしたが魚影がみられず、5月は操業が行われていない（前年3.5トン、平年9.7トン）。

播磨灘北西部（岡山県側）では魚探に魚影が映らないため、6月14日現在まで操業が行われていない（5月：前年漁獲なし、平年0.4トン、6月1日～14日までの合計：前年28トン、平年26トン）。



2021年5月～6月のシラス漁況

## (2) 産卵量と稚仔量

紀伊水道外域東部では5月産卵量は前年の22%、平年の8%であった。紀伊水道東部では5月産卵量は前年の43%、平年の37%であった。大阪湾では5月の産卵量は前年の255%、平年の595%、6月は前年の49%、平年の119%であった。5月の稚仔採集数は前年の244%、平年の151%、6月は前年の49%、平年の233%であった。播磨灘では6月の産卵量は前年の179%、平年の130%であった(図5)。播磨灘東部では前年の117%、平年の147%、播磨灘北西部では前年の166%、平年の151%、播磨灘南西部では前年の1261%、平年の103%であった。

## (3) 黒潮流路の現況と今後の予測

6月14日現在、黒潮は大蛇行流路で推移しており、都井岬沖で離岸、足摺岬沖、室戸岬沖、潮岬沖で著しく離岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システムFRA-ROMSの予測結果を併せて考慮すると、紀伊水道沖の黒潮は6月後半から8月までは、蛇行の移動に伴い一時的に接岸することはあるものの、概ね離岸で推移すると予測される。

## (4) 今後の見通し

### シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定されるが、今後の漁況は主に内海発生群に左右されると考えられる。本漁期に黒潮は離岸傾向で推移すると予測されており、また紀伊水道外域東部や紀伊水道東部における産卵は低水準である。大阪湾での6月の産卵量は2020年を下回っているものの、平年を上回っている。これらの状況から判断すると2020年同様、平年並みと考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7月～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘(徳島県海域)の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘(徳島県海域)よりも紀伊水道の影響が大きい(図6)。紀伊水道西部における10m層の平均水温は2020年並み( $-0.5^{\circ}\text{C} \leq$  平年値との差 $\leq +0.5^{\circ}\text{C}$ )で、平年よりやや低め( $-1.0^{\circ}\text{C} \leq$  平年値との差 $< -0.5^{\circ}\text{C}$ )、播磨灘(徳島県海域)では2020年よりかなり低め(平年値との差 $< -1.5^{\circ}\text{C}$ )で、平年よりやや低めと水温条件は良い。また大阪湾や播磨灘での6月の産卵量は平年を上回っていることから、好漁であった2020年並みと予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。黒潮は離岸傾向が続くと予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり見込めない。また大阪湾での6月の産卵量や稚仔採集数は2020年を下回っていることから、平年並みであった2020年を下回ると考えられる。

播磨灘東部では内海発生群が漁の主体であり、6月の水温が低いほど7月～8月の漁獲量が多くなる傾向がある(図7)。播磨灘全体での6月の水温は2020年よりやや低めで平年並み、産卵量は2020年及び平年を上回っている(図5)。したがって不漁であった2020年を上回り、平年並みと予測される。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。6月の卵稚仔量や水温とその後の漁模様の関係性をみると、水温が低いと好漁、高いと不漁になる傾向がうかがわれた。2021年6月の卵稚仔量と水温が平年並みであることから判断すると、2020年同様、平年並みと考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。当該海域の産卵状況から判断すると、不漁であった2020年を上回り、平年並みと考えられる。

### カタクチイワシ(小羽から大羽)

大阪湾では漁期当初に2020年発生1歳魚、その後は2021年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚が小・中羽として漁獲される。2021年の春シラス漁では2020年を上回る漁獲があったことから、外海発生

群の湾内への流入量は 2020 年よりは多いと考えられる。ただし、近年、夏季はマイワシを主体に漁獲しており、2021 年もその傾向が続くことが予想されるため、2020 年を上回るが、平年を下回ると考えられる。

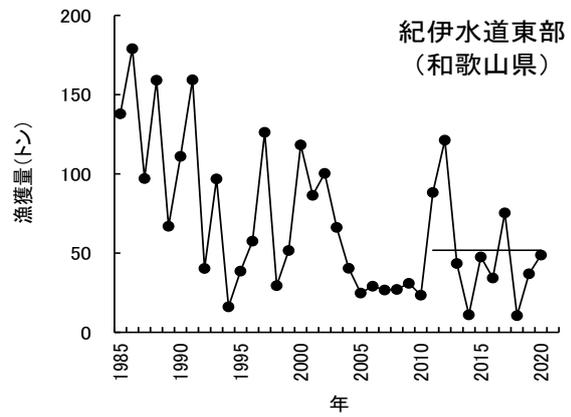
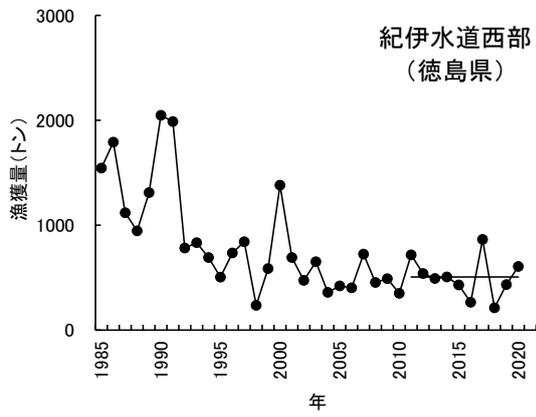


図1 紀伊水道の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

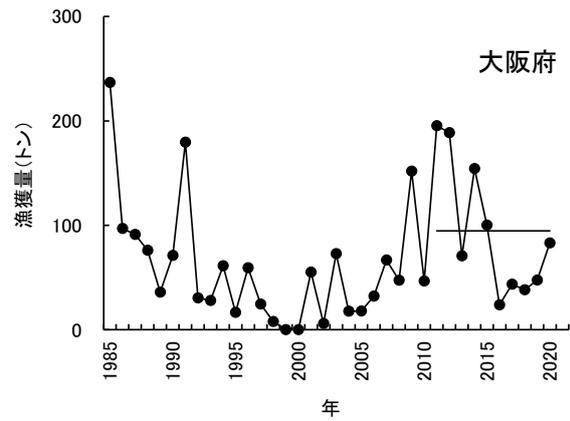
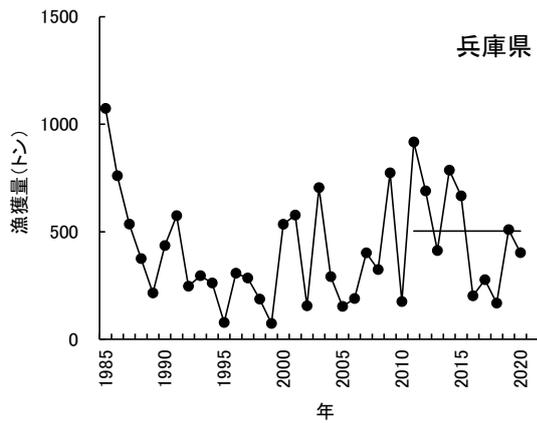


図2 大阪湾の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

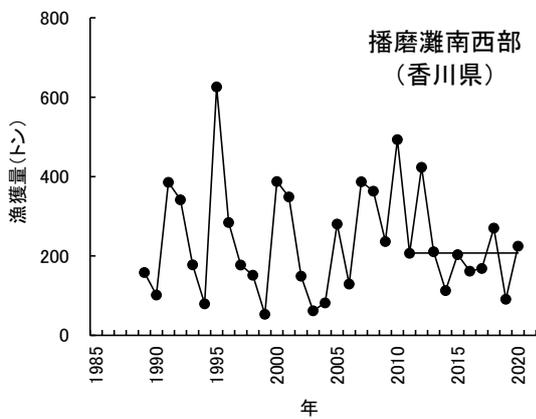
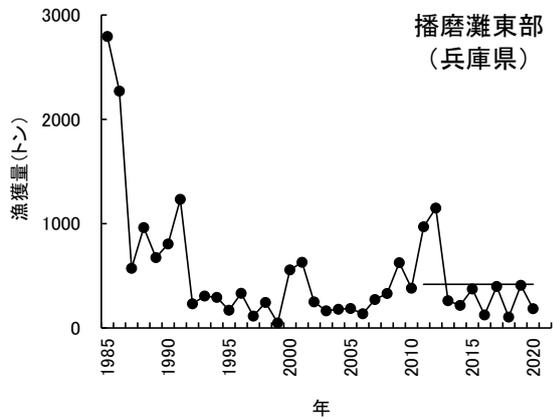
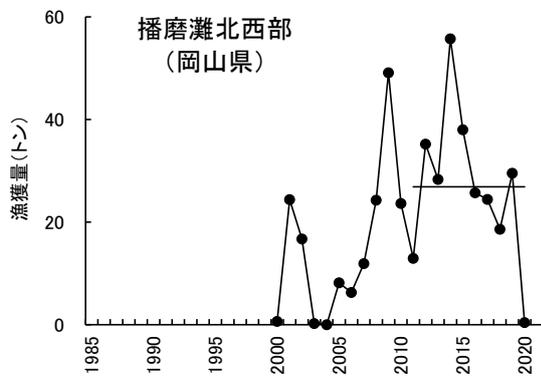


図3 播磨灘北西部の標本船、東部及び南西部の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

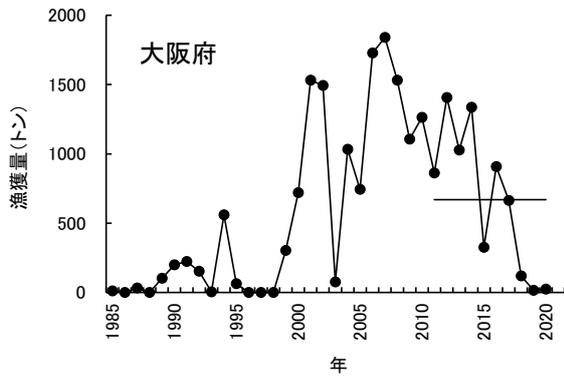


図4 大阪湾の標本船における7月～8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値）

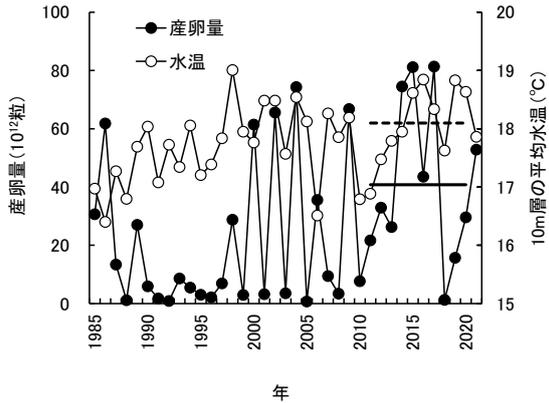


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層の平均水温（実線は産卵量、点線は10m層の平均水温の平年値）

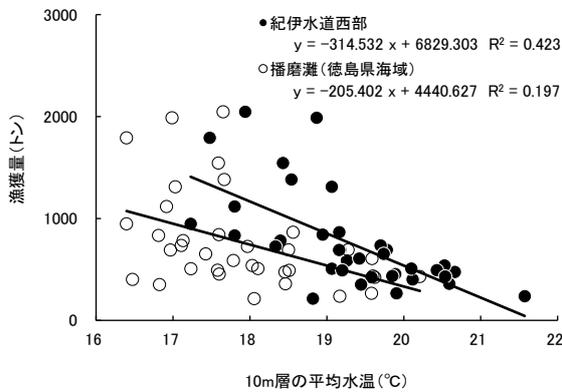


図6 紀伊水道西部及び播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層の平均水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

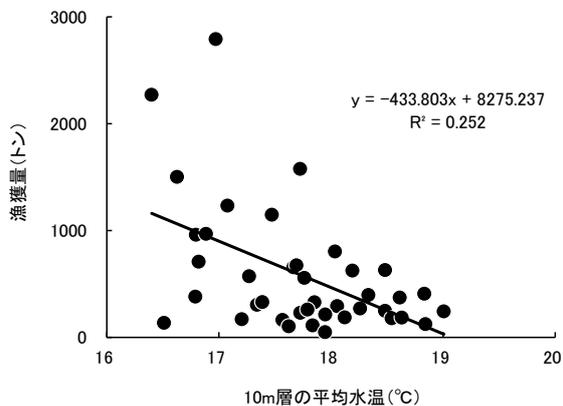


図7 播磨灘の6月における10m層の平均水温と播磨灘東部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

## 参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p>	<p>香川県水産試験場</p> <p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	---